

「MJ BUSINESS 2019年6月号」に当社が掲載されました。

当社 ヤンゴン事務所が、ミャンマー・ジャポン発行の『MJ BUSINESS 2019年6月号』に掲載されました。

【記事抜粋】

Sanyu Consultants / 三祐コンサルタンツ



▲シュエポーにて、ゴマの品質チェック。2027年には同地域の平均農業収入は約1.5倍になる見込みだという

▲マンダレー南端の山間部にあるボンロンダム。厳しい条件下での工事となった(写真: IWUMD 提供)

川上から川下までが業務範囲 農業のトータルコンサルティング

農業開発、水資源開発などを得意とする建設コンサルタント「三祐コンサルタンツ」。ミャンマーとの関わりは1976年から。最初の案件はナライダムの調査で、その後78年にイラワジ川流域農業総合開発計画業務を開始。同社初の多部門(農業、林業、漁業)に渡る総合開発計画のマスタープランを作り、180万haを対象とした大型案件だった。2001年には「カバンダ・ピューダム計画」で調査、設計、施工監理などを請け負った。カバンダダムは、堤高76mに達する砂盤上の均一型ダムという日

本では考えられない条件下でのプロジェクトで、同社の日笠執行役員は「設計図もないまま、いきなり開拓するのは驚きました」と話す。

2017年から携わっているのが「ミャンマー国農業所得向上事業準備調査」。ザガイン州のシュエポー灌漑地区にて、収入向上を図るた

めプロジェクトを策定。灌漑施設の改修、道路・橋の改修、田畑の整備に加え、用水の管理運営の民間移管も担当。「軍事政権時は国が行っていましたが、コスト削減の観点から農家自身で行うのが大切なんです」と日笠氏。特筆すべきは収益率の高い作物の選定、販売網の拡大といった川下までもが業務範囲となり、トータルな農家への支援を行っている。

直近の課題は人材の育成。同社では灌漑局に依頼され、工学科出身者に技術指導を行うなど、蓄積した知見を余すことなくこの地に伝えている。日笠執行役員は「我々ばかりが事業をやっても国は発展はしません。次世代を担う人材に育てほしい」と語った。

	Telephone 01-5771-61
	Address c/o Irrigation & Water Utilization Management Department, Thitsar Rd., Yankin Tsp., Yangon
	URL http://sanyu.tcp.jp
	E-mail m-ovs-elgyo@sanyu-con.co.jp

Jun 2019 MYANMAR JAPON 11

◇関連リンク◇

ミャンマー・ジャポン (MYANMAR Japon)

<https://myanmarjapon.com/>

MJ BUSINESS 2019年6月号 (当社の掲載は、11 ページ)

<https://myanmarjapon.com/wp-content/uploads/2019/05/MJB1906.pdf>

<https://myanmarjapon.com/sf/1906/7.html>